

第80回 AI活用は、いつでも、だれでも、タダで・・・PART5

ChatGPTが誰にでも開かれるようになって3年経過しました。私の周りでも、ChatGPTやGeminiのような生成AIを使いこなしている人（組織）とそうでない人（組織）の間で、生産性や創造性のギャップがどんどん開いてきています。

使いこなしていない人（組織）にお聞きすると、「中小企業などにはムリ(>_<)」「マシーンに、人間の心を動かすコンテンツを作れるわけがない(・へ・)」といった答えが返ってくると思います。しかしいずれも誤解です。ちょっと使い込んでみれば、誤解であることはすぐわかると思います。

「中小企業などにはムリ」と思われる方には、中小企業向けに無料で提供されている次の手引書をお薦めいたします。

『中小企業のための「生成AI」活用入門ガイド（第7版）』（東京商工会議所 2025年8月）
https://www.tokyo-cci.or.jp/chusho/tcci_generativeai_guide_for_smes_ver07.pdf

とりあえずまず使ってみるには、インターネット接続したパソコンを開いて、39ページからの記載の通りに行えば、すぐできます。設備投資も技術者も要りません。

（ちなみに、ChatGPT・Geminiとも、最近はログインしないで使えるようになりましたが、勉強や業務利用のためでしたら、ログイン版を強くお勧めいたします。スペックが違いますし、ログイン版では履歴が記憶されますので、中断したあと続きから始めたり、以前のやり取りを掘り起こすこともできます。）

あとは、使い方次第です。例えば、「・・・という客層を対象に、・・・を具材にして、・・・のような加工をした、・・・円前後の調理パンの、①ネーミングと②キャッチフレーズと③説明文と④お披露目イベント企画を、A～Eの5つ作って下さい。」とプロンプトを入力すれば、一瞬で5つの案が出てきます。しかしこれで終わらせたら、生成AIの真価を10%も発揮していないと言えるでしょう。

AIの回答に目を通したら、続けて、「Bについて、もっと情に訴え、少し長めの説明文を作って」「Dについて、もっと味を訴求したキャッチフレーズを作って」「Eについて、クリスマスに便乗したお披露目イベントを考えて」・・・と、望むようなものができるまで、何度でも畳みかけて行くのです。

ある程度いいものができたと思えたら、「このパンの企画を、①法人理事会と、②工場で働く作業者と、③販売先候補であるスーパーマーケットと、④地元新聞の記者に、それぞれ説明する文案を各800字くらいで作って下さい。」と打ち込んでみます。その結果に目を通したら、「①について、もっと感情を揺さぶる表現を織り込んで」「④について、社会福祉や地域振興に役立つという観点を強調して」などなどとAIにお願いしてみます。

このように使い込んでいけば、人間がゼロから作るよりはるかに効率的に、人の心に響き、社会を動かす企画を創っていけるでしょう♪。